

「メディカル・キャンプ・セミナー」レポート

令和元年8月6日（火）から8月9日（金）までの4日間の日程で、札幌医科大学、ネイパル深川及び旭川医科大学を会場に、「メディカル・キャンプ・セミナー」を開催しました。

全道各地から、医学部医学科を目指す高校2年生43名が参加し、札幌医科大学での特別講義、標本館の見学や現役大学生とのメディカルカフェ、北海道大学による特別講演、旭川医科大学での小論文指導やワールドカフェ方式によるワークショップ、そして、進路実現のための数学や英語の学習などに取り組みました。

参加者は、地域医療の現状や課題を再認識するとともに、将来、医師としてどのようなキャリアを描くべきかなどについて、考えを深めていました。

1日目【8月6日（火）】

札幌医科大学

特別講義

- 講師：札幌医科大学医学部長 三浦 哲嗣 教授
 - ・医学の歴史に触れながら、医学の根本的な意義や、「科学の知」と「臨床の知」の違い、また、診療のプロセスをもとに、コミュニケーション能力の大切さなど、医師に必要なことについて、講義をしていただきました。



メディカルカフェ・標本館見学

- メディカルカフェ運営：

医療人育成センター入試・高大連携部副部門長	鈴木 拓 教授
アドミッションセンター	齊藤 正樹 講師
医学部医学科在学生6名	
- 標本館説明：

保健医療学部理学療法学科第二講座	松村 博文 教授
------------------	----------

 - ・参加者が6グループに分かれ、メディカルカフェと標本館の見学を行いました。
 - ・メディカルカフェでは、現役大学生から大学生活の様子や、受験勉強のコツなど、参加者が疑問に思っていることや悩んでいることについて教えていただきました。また、標本館では、貴重な医学・生物学的標本や関連資料を見学させていただきました。



まとめ

- 講師：医療人育成センター長 高橋 弘毅 教授
 - ・医学において、今後大切にしたい視点やコミュニケーション能力の本質などについてお話しいただくとともに、参加者への激励の言葉をいただきました。



ネイパル深川

オリエンテーション・ナイトプログラム

○ 運営：高校教育課 今中 勇希 主査

- ・セミナー参加の意義や留意点について説明を受けた後、コミュニケーション・プログラムに取り組み、参加者同士の交流を深めました。



2日目【8月7日（水）】

説明「本道の医師確保の対策について」

○ 講師：北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課
医師確保推進グループ 齊藤 俊彦 主査

- ・地域医療を支える医師確保の現状と課題とともに、課題解決に向けた「北海道医師養成確保修学資金貸付制度」などの北海道の取組を説明していただきました。



講演「医学科に合格するために」

○ 講師：学校法人河合塾札幌校 河崎 力 校長

- ・医学部医学科の入試の現状、面接・小論文の対策方法、これからの学習法について、参加者の意見を交えながら、今後取り組むべきことなどについてアドバイスしていただきました。



特別講義「医師ってどんな職業？」

○ 講師：北海道大学大学院医学研究科
医学教育推進センター 高橋 誠 教授

- ・医師の法的な位置付けや、講師の御経験に基づいた医師としてのキャリアプラン、医師に求められていることなどについて助言をしていただきました。



講義①② <数学・英語>

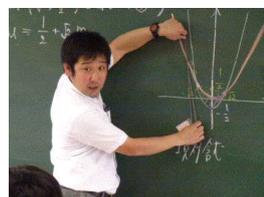
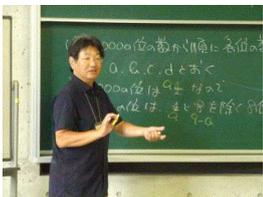
○ 数学講師

札幌啓成高校 大島 寿美教諭
札幌西高校 福島 洋一教諭
札幌東高校 横山 隆之教諭
登別明日中等教育学校 平等 直人教諭

○ 英語講師

札幌西高校 高木 理教諭
帯広柏葉高校 加藤 洋平教諭
札幌国際情報高校 永原 竜教諭
苫小牧東高校 高西 貴幸教諭

- ・実際の入試問題などを題材に、正答を導き出す考え方や問題の解き方のほか、医学部合格に向けた学習方法や学習のポイントなどについて、進学指導に定評のある道立高校等の教諭から指導を受けました。





3日目【8月8日（木）】

旭川医科大学

ミニ作文

- 講師：旭川医科大学副学長 藤尾 均 教授
 - ・「生命倫理」に関する作文演習を実施していただくとともに、参加者全員が書いた作文を、段階別に評価していただきました。
 - ・講評では、評価が変わるポイントなどを説明していただくとともに、文章を書く上での留意点について指導していただきました。



ミニ講義、ワークショップ

- 運営：入学センター長 坂本 尚志 教授
医学部医学科在学生9名
 - ・医学部医学科に進学することは「職業選択」の意味をもつことや、大学入試において求められる資質・能力のほか、大学入試改革の背景や、「地域医療」と「僻地医療」の違いなど北海道の医療の現状について講義をしていただきました。
 - ・11グループに分かれて、旭川医大の入試科目の変更を踏まえ「医師としての資質に高等学校の理科は必要？」をテーマに協議しました。
 - ・話し合いの途中、課題の把握の仕方や対話の方法について、坂本教授や9名のチューターの皆さんが指導・助言してくださいました。



「メディカル・キャンプ・セミナー」OGからのメッセージ

★★旭川医科大学医学部医学科 1年生 宇高 彩さん★★

- 医療について関心の高い仲間たちと過ごした4日間は充実した時間になったことと思います。かつて私が参加したときには強くそう思いました。
- 私は他にも高校時代に様々なセミナーに参加し、医療者として何が求められているのか考え、行動していました。その姿勢は大学生になった今でも変わらず大切にしています。
- 皆さんも高校生のうちから目の前の勉強以外にも将来自分が何をしたいのか考え、ぜひその目標のために日々努力を重ねられる人になってください。応援しています。

★★旭川医科大学医学部医学科 1年生 重堂 百恵さん★★

- 3泊4日お疲れ様でした。私も2年前このメディカルキャンプセミナーに参加しましたが、他校の医学部を目指す仲間たちとの交流は、滅多にない貴重な機会だったと思います。
- おそらくまだ進路に迷っている人も多いと思います。もちろん医療者になるだけが正解ではありません。しかしどんな道に進んでも、答えのない問いに対面することがあると思います。
- 今回のセミナーを通して、模範解答のない問いを様々な立場で考えられるように少しでもなることができたらいいなと思います。今回得たものを忘れず残りの高校生活を送ってください。



4日目【8月9日（金）】

ネイパル深川

講義③ <数学・英語>

- 数学講師
札幌南高校 村上 恭平教諭
苫小牧東高校 伊藤 雄大教諭
- 英語講師
札幌東高校 渋谷奈緒美教諭
釧路湖陵高校 奥田 康夫教諭



閉会式

- ・参加者を代表して帯広柏葉高校の奥村 一樹さんが、本セミナーで学んだことや、医療の道に進む決意のほか、協力いただいた方々への謝辞などを述べました。
- ・また、運営者から、4日間の振り返りのスライドをもとに、参加者の皆さんが、4日間を通して頑張っていた姿を見て大変感激したことや、来年度の大学入試において、医学部医学科への合格を勝ち取ることへの期待が込められた挨拶がありました。



参加者からの感想など（抜粋）

- 医師になるために必要な知識や倫理観をたくさん教えていただきました。特に現役の医大生の生の声を聞くことが、自分にとって最も刺激を受けました。講義も分かりやすくレベルの高い問題を取り扱っていたため、とてもやりがいがありました。またこのような機会があれば、ぜひ参加したいです。
- とても楽しい4日間でした。あまり知らない地域に住んでいる人とも話せて、いろいろな思いや境遇があることが実感できました。医学部志望の人と話すことで、自分の未熟さや意見を伝える能力のなさなどを感じたので、改善していきたいです。勉強面でも精神面でも尊敬できる人や、憧れる人に会えたので、これからの自分の成長につなげていきたいです。講義も普段ならできないこともできたので大満足です。ありがとうございました。
- 今回のセミナーでは、学習面でも将来の自分のビジョンを明確にする上でも、いろいろな機会を設けていただいたので、とても成長することができました。勉強をすることは勿論ですが、医療に関する話題を取り込もうとする意欲を医師になったときのために持つようになりました。
- このセミナーを受講して良かったと心から思います。普段、接点のない全道各地の進学校の人たちと交流できてとても有意義な時間となりました。自分の置かれている環境は良くないですが、各地の同じ志を持つ人たちと共に頑張りたいです。
- 正直、最初は、どうなるんだろうと、不安だったし、少し怖かったが、たくさんの人と話すことができて本当に楽しかった。また、講義や話し合いなどを通してたくさん刺激を受け、自分の弱点を知ることができた。将来についてまだ明確に定まっていなまま参加したが、今回のセミナーを通して少しずつ目標を見つけることができているように感じた。本当に参加して良かった。協力してくださったみなさん、本当にありがとうございました。



◆協力 国立大学法人北海道大学
国立大学法人旭川医科大学
北海道公立大学法人札幌医科大学

◆主催 北海道教育委員会（北海道教育庁学校教育局高校教育課）